

5月30日アナリスト向け決算説明会質疑応答(2014年3月期決算)

- Q. 手堅い中計と感じたが、中計に新製品と拡販、日系以外の拡販を織り込んでいるのか？
- A. 現状のビジネスでは、懸架ばね・シート・HDD 関連部品など規模がある程度の大きさの事業のほかに、売上高で50億円規模の事業がグループ全体でかなりある。それらは国内外で十分に拡販できる余地があると考えており、中計ではそれらを中心に拡販の施策を織り込んだ。新製品は特に大きくは入っていないが、17年以降で新たな柱となる事業を探して行かなければならない。それに向けてこの中計で新事業・新製品の開発を進めて行く。すでに事業の柱となる新事業・新製品を探索するプロジェクトを立ち上げた。また、日系客先は当然のことながら、日系以外の客先を伸ばすことは課題であり、この3年間でその課題に取り組む。発表した欧州新会社の設立はその布石である。
- Q. 15.3期の研究開発費が売上高比率で2%から3%に上がるが、この傾向は継続するのか？
- A. 継続する。新しいものをつくるためや、新しいつくり方をグローバルで広げるために、今までよりワンランク上の研究開発に使っていく。
- Q. 懸架ばねの14.3期で為替効果とあるが、その内容は何か？その効果は15.3期も継続するのか？
- A. 一部の海外拠点での材料購入の為替メリットがあった。15.3期以降はこの為替効果は無い。そのため利益率が低く出ているが、材料調達で改善余地はまだあるので、その他の合理化も含めしっかり実施していく。
- Q. シートの4Qでの減の要因は？また、今期の1Qへの影響はあるのか？
- A. 受注車種構成の悪化があったことによる。それと大雪の影響が群馬工場と豊田工場であった。いずれも今期1Qへの影響はない。
- Q. 15.3期の懸架ばねは対前期比で売上△48億円に対して営業利益△42億円である。固定費が増えるのか？
- A. 固定費は増える。設備投資・研究開発費を増やし、人も増やす。

- Q. タイの直近の状況と影響を教えてください。その他の地域の状況も併せて教えてください。
- A. タイの政治混乱の状況については、製造業に影響がなかった4年前と今回の状況は違っている。自動車購入時の税制優遇措置がなくなり消費者マインドが冷えている経済環境の中で起こっていることなので影響は見えない。直近の自動車生産は前年比で下がっており、下期は全く不透明な状況。ただし、パーツ安傾向なのでカーメーカーに輸出競争力がでてきている。これはタイニッパツにとっては良い傾向である。その他の地域は、懸架ばねが中国やインドなど海外各地域で上ぶれる可能性がある。

以上